

# 近畿中国森林管理局 事業評価技術検討会議事録 (事前評価、期中の評価)

月 日： 平成24年7月9日（月）14:00～15:30  
場 所： 近畿中国森林管理局 第3会議室  
出席者： 委員長 松村 和樹  
          委 員 松浦 純生  
          委 員 深町 加津枝  
説明員： 森林整備部長、企画調整室長、治山課長

14:00 （開会）  
14:20 （事前評価資料説明）  
14:30 （審議）  
15:00 （期中の評価資料説明）  
15:10 （審議）

## 【事前評価（紀伊田辺地区）】

（松村委員）世界遺産の熊野古道で木製構造物を使うとのことだが、説明のあった愛賀合地区ではイメージないようだが。

（治山課長）菖蒲谷地区の山腹施工予定地が熊野古道のエリアにあたる。ここでは文化庁と歩道の位置等を検討していくこととなるが、この山腹で木製構造物の工法を考えている。

（松村委員）谷止には木製を使わないのか。

（治山課長）上流部の残存型枠で使用する予定。

（松村委員）下流部や木製の堰堤は使わないのか。

（治山課長）木製を使用する箇所は、景観に配慮する場所や、二次災害が起こる可能性がない場所等に限られ、今回のような災害が起こった箇所には適さないと考えている。

（松浦委員）残存型枠の使用はコスト面か、景観に配慮してか、どちらになるのか。

（治山課長）両方である。

（松浦委員）山腹では高耐久性で処理した丸太を使うのか。どのくらい持つのか。

（治山課長）使用予定である。耐久性はせいぜい10年といわれている。山腹で使用される木製構造物はいずれ腐朽し、森林に帰することを前提に使用することとなる。

（整備部長）局としては公共事業にも木材を積極的に有効活用していこうという考えで望んでいる。供給能力等難しい面もあるが、できるだけ使えるところには使っていきたいと考えている。

（深町委員）菖蒲谷の自然植生導入型とは？

（治山課長）世界遺産の箇所なので、肥料体だけで種子を入れずに近隣の種子が飛んでくるのを待つ自然発芽を期待する工法を取り入れたいと考えている。

（深町委員）ここだとどういう植生になるのか？今のままだと具体的なイメージがわからない。

（治山課長）まだ古道の位置も決定していない段階であり、工法はあくまで案であり、これをたたき台にして、これから文化庁と協議を重ねて、適切な工法を検討していきたいと

考えている。

(深町委員) 土砂流出便益の計算法は、下流ダムの建設コストをみている？上流部できちんと治山ダムを施工したら、砂防ダムの経費はかからないということか。

(整備部長) 代替法というその機能を何かに代替させて、それでコストがどれくらいかかるかという計算の仕方であり、今回は土砂を止めるという意味での代替施設の一つということで砂防ダムをあげている。

(深町委員) 砂防ダムと治山ダムは連携していくのか？

(治山課長) 砂防ダムと治山ダムは役割分担が違うため、連絡調整していく。

(深町委員) 森林整備との関係だが、この事業を行うことによる影響はないのか？

(治山課長) 我々が行う治山事業というのは、土の層が流れてしまっているところなので、山にする基礎を作る意味で堰堤や山腹工を施工している。ある程度森林に戻ったという段階になれば森林整備もその周辺とあわせて進んでいくことになるのではないかと考えている。

(松村委員) ほかにご意見はないか。本事業評価については異論なしと考えるがよろしいか。(異論無し)

それほど大きな問題は出ていないと思われるが、工法、コスト削減等検討が必要などころがあり、今後つめていく必要があるのではないかと考える。 よろしく願いたい。

## 【期中の評価（十津川地区）】

(松村委員) 全体計画額と総費用額が違うのはなぜか

(治山課長) 全体計画というのは S42～H33 年の事業費。総費用というのは、各年度の事業費から社会的割引率を除し、現在価値化した金額。

(松浦委員) 砂防が直轄で行うエリアはどうなっているか。

(治山課長) (図面により説明)

(深町委員) B/C だが、どんな場所でも 1.0 以上になるのでは？この事業評価における B/C の重要度はどのくらいか。

(治山課長) 事前評価と同じ位置づけである。今回の十津川の場合は以前よりエリアを広げているので今までのものと数値が変わってくる。事業を実施する場合には、B/C が 1.0 を超えることが事前評価でも必ず必要になってくる要素であるが、期中の評価でも同様、前回の期中評価からどのように変化しているかという観点で費用対効果分析を行っている。

(深町委員) 期中の評価を行う場合、それなりの必要性があって事業を行っていると思われるが、どのようなところを重点的にみていくのか。

(治山課長) 期中の評価は平成 20 年度にも行っておりその時からどのような社会的状況変化があったのか、奈良県等地方の事業に対する意見などより計画をこのまま継続してよいかというときに、費用対効果分析も大きな判断材料と考える。

(松村委員) 便益がこれだけ出ているのだから、総費用を上げてもいいのではという考えもあると思うが、それはどこで判断していくのか。

(治山課長) 公共事業は近年縮小傾向の中でやらなければいけない箇所はやらなければいけないが、現場の状況をみながら計画を変更していく必要もあるのではないかと考える。

(松村委員) B/C が例えば 3.0 が 2.0 になるのはあまり事業実行には関係ないのか。

(企画調整室長) 事業をみたときに B/C が 1 を上回るのを確認するのが主な目的である。

(松村委員) 事業に対する経済波及効果は計算しないのか。

(治山課長) 林野庁ではみていない。

(松村委員) 公共事業を行うにあたって経済波及効果は大きな要素であると思われるので、検討してみてはどうか。

(深町委員) 木製構造物を入れるなど自然復元を目指すものに対して、便益をみないことになっているのは残念。せつかくいいことをしても評価されないのはもったいないので、これは改善すべきではないか。

(治山課長) 評価マニュアル等制度の話になるので、林野庁に意見をあげることにする。

(松浦委員) CVM はしているのか。

(治山課長) していない。

(松村委員) 水質浄化便益を詳しく説明してほしい。

(治山課長) (配布資料により説明)

(松浦委員) 治山の技術基準を反映した上での事業量や全体計画の額になっているのか。

(治山課長) 技術基準に基づいている。計画なので細部の設計までは実施されていないが、今後技術基準に基づいて設計をしていく。

(松村委員) 以上で意見は出尽くしたようだが。

この事業評価については異論なしということでよろしいか。(異論無し)

ただ、評価の方法の見直し等意見を出させて頂いた。すぐには対応できないと思うがよろしく願います。